

EIWA UNIVERSE

発行日 2013. 7. 23 第8号

短期大学部の地域連携事業

目次:

学長・副学長あいさつ	2
宗教委員会より	3
ボランティアセンターより	3
学科News (大学)	4
学科News (短大)	5
キャリア支援課より	6
学務課より	7

ハイライト:

- ・学生生活スタート (3面)
- ・ASEAN学生訪問 (4面)
- ・多目的グラウンド (8面)

静岡英和学院大学は、UI (University Identity) の1つに、地域社会に貢献する大学を挙げており、かねてから、地域社会との結びつきを大切にしてきました。短期大学部においても、インターンシップに力を入れるなど、地域の企業との連携を図ってきました。最近になって、「未来経営戦略推進経費 (平成23-27年)」「就業力育成支援事業 (平成22-23年)」並びに「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業 (平成23-25年)」の補助を受け、多くの地域連携事業を行っています。ここではその幾つかを紹介します。

* 中山間地農村コミュニティ拠点づくりを支援する①

「食でリフレッシュ! in 梅ヶ島」京都研修 (食物学科) (2013年1月23・24日に実施)

食物学科、梅ヶ島学区住民 (旅館関係者と農家) および近隣大学が協力し、京都にて研修会を開催しました。このプロジェクトは、大学と中山間地の組織や住民が、手を結び連携して行う「地域交流事業」のひとつです。「静岡県の特産品に関するレシピの公募」により選考した学生 (9名) と地域住民が老舗和菓子工房や京懐石専門店などで研修を共にして、学内では学ぶことができない知識や調理技術、伝統的食文化を存分に体験した二日間をすごしました。



本プロジェクトの実施により、本学が「地域と共に歩む大学」であることをアピールできました。学生も「静岡県の特産品によるレシピ作成」や、京都での「プレゼンテーション」など、積極的に準備や発表を行いました。学生が地域住民と共に過ごし、学ぶことが出来たことも大きな成果のひとつです。懐石 宿 近又 鶴飼氏の「一手間を惜しまない」という言葉が特に印象的で、それを今後の梅ヶ島に生かしたいという意見が複数の住民から聞かれました。

* ビジネスマッチング体験実習 (現コミ学科) ①, ②

現代コミュニケーション学科では、2011年と2012年に「しんきんビジネスマッチング静岡」に学生をボランティアとして派遣しました。



参加学生は、出展ブースの地元企業の商品説明や補助業務を行いました。このイベントに参加する狙いは二つあります。一つは、地元の中小企業の理解を深めることです。大学の講義だけでなく、展示企業の社長、社員さんから企業の現場を知ることになります。二つ目は、視野を広げることです。出展企業の見学を通して、様々な業種の企業が地元が存在することを勉強します。今後も、このようなビジネスフェアへの参加を推進していきたいと思えます。

* 企業・地域団体とのコラボレーションによる、食育ボランティア活動 (食物学科) ②, ③

食物学科の学生から「食育ボランティア」を募り、静岡ガス (株)、コープしずおか、焼津信用金庫などと共同で地域を対象とした食育活動を行っています。

静岡ガスショールームにおける食育活動では、短期大学部の教員や学生が企画したクレープづくり教室や、にんじんケーキ教室を行い、学生が「食育ボランティア」として地域の方々に食育活動を行いました。2012年度は、11回に亘って活動を行い、食育の対象となった一般の参加者は、述べ2,100人にもなりました。活動に関わった「食育ボランティア」は1年生68人、2年生16人で、人に問われたり教えたりする機会を通して、相手にわかりやすく伝える力をつける訓練をすることができました。



①「未来経営戦略推進経費」補助事業
②「就業力育成支援事業」補助事業
③「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」補助事業

本学から気高い人間を

学長 武藤 元昭



大震災から2年以上が過ぎましたが、まだまだ回復には時間がかかりそうです。そういう状況の中で、日々快く学生生活を送ることが出来ることには大いに感謝しなければなりません。この大学に学ぶ中で大切なことは、自分が他の何かによって生かされているという感謝の思いを持つことだと思います。建学の精神を想起すれば、自づとそうなる筈です。

幸い本学の学生諸君は、非常に優しく人の好い面を持っているように思います。このことは社会に出て非常にプラスに働くとおもいます。ただ、それだけでは厳しい時代を生きていくのは難しいでしょう。それにプラスされるものがあって、初めて世の中に出て行けるのだと思います。プラスされるものとは何でしょうか。それは学習によって裏付けられた自信です。自分が何を目標しているのか、それを見究め、それを達成するために精一杯の努力をした結果得られる自信です。自信を持つことが出来れば、自分を堂々と表明するのは容易なことです。但し自分を表明するには的確な表現

が必要です。それこそ大学での日々の努力によって得られるものです。

現在は、大学の力を量る指標の第一が就職率であるというような考えが支配的です。確かに、卒業後の生活は大切です。しかし、大学が就職率を目標にカリキュラムを考えるのだとすれば、少々お寒い話です。企業が求めているのは、しっかり己れを確立した自信を持った人物である筈です。ということは、本学が目指すものが、それに当たります。まずしっかりと己れを語れる人間を作ることが、本学の目標です。そうした人間を多く輩出すれば、就職先は向こうから飛込んできます。残念乍ら、現在のところ理想通りに行っているとは言えませんが、教職員、学生一丸となって良い人間を輩出する教育を創り上げていきたいと思ひます。静岡英和学院大学から気高い人間を一人でも多く産み出せるよう、皆さんと一緒に頑張りたいものです。

一丁目一番地

副学長 市川 充俊



入学式から3カ月、ようやく大学も落ち着きを取り戻してきました。

新入生にとってこれから卒業までの2年間または4年間、人生を考える貴重な時間となるはずです。

同時に大学にとっても学生をどのように育てるか、責任が問われているところです。

昔の経済学者リカードは、国家に限らず、企業でも個人でも、誰もが自分の得意分野で頑張れば全員が幸福になれると説きました。社会は弱肉強食の世界ではなく、人々は自分の得意技を交換し合って豊かになっていく。これはとても美しい理論です。

大学も今変わろうとしています。自立心ある人間をどう育て、自分の得意技をどう見つけさせるか、再確認が求められています。

自立し自分の得意分野を磨いた人間は、生涯の仕事への挑戦を自らの意思で決断し、夢の実現に向けて挑戦し続けるに違いありません。

その意味で自立心ある人材育成は、大学の教育改革の一丁目一番地です。

新入生、今年もチャペル、ステューデント・リトリートで、スタート！

今年も静岡英和学院大学の新入生たちは入学式に引き続き、チャペルとステューデント・リトリートで始まった。この2つが、入学したばかりの学生達にとって「静岡英和学院大学はキリスト教主義の学校なのだ」と痛感する出来事であろう。大学の礼拝は開学以来、ずっと行われているが、新館5階の講堂にて週の半ばの水曜日10時30分から始まる。今年も4月3日の始業礼拝から始まり、4月10日はイースター（復活祭）礼拝を行い、礼拝後、イースターキャンディーを礼拝出席者全員に配布した。毎回の礼拝では、聖書の話を読み、オルガンに合わせて讃美歌を歌い、また「主の祈り」を祈りつつ、静かに自分を振り返られる貴重な時間として礼拝を豊かに守っている。

新入生のステューデント・リトリートは4月17日（水）から19日（金）まで短大、大学それぞれ1泊2日の日程で、「タラントンを探そう！」の主題の下、行われた。今年



は、キリスト教施設である天城山荘にて1年生全員と引率教員が共に1泊2日を過ごすことが出来た。天城山荘はかつて短大時代に利用していたようであるが、大学になって初めの利用である。日常の喧噪から

解き放たれ静寂でゆったりとした気分と大チャペルや中チャペルがあって、キリスト教の独特の雰囲気に触れ、また自分を見つめ直す絶好の機会となったことと思う。当日は、東静岡からバスで、天城山荘に到着した。先ず、大チャペルにて開会礼拝を行った後、食堂に移動して食前のお祈りの後、美味しい昼食を食べ、ホテルの方へ全員で元気よく「よろしくお祈りします！」の挨拶。ホテルの支配人からは歓迎の言葉と宿泊施設の説明があった。14時から一日目のプログラムを開始。「リトリート」全体のスケジュールの説明の後、引率教員と上級生の簡単な自己紹介があり、約40分、上級生による大学生活へのアドバイスが

あった。その後、配布されたお菓子と飲み物をもって各部屋へ、しばしの休憩。16時から各学科に分かれ、先生を交えてグループ討議した後、自由時間となった。18時10分よりお待ちかねの夕食。食事の前のお祈り、食後の「ごちそうさま」も、少し板についてきたようだった。19時から大チャペルにてキャンドルサービスを行った。一人一人、キャンドルをもち、静かに礼拝の中に身をおきつつ、この1日を振り返ることができた。その後は体育館で汗を流す者、仲良くなった友とまた先生と語り合う者・・・それぞれが自由な時間を過ごした。



翌日は庭に出て、全員でラジオ体操を行った。朝食の後、お世話になったホテルの人たちに全員であいさつをした。閉会礼拝までの1時間は再び、学科毎に用意したプログラムを行った。最後のプログラムは伊豆シャボテン公園。たくさんの動物たちとふれ合いながら、楽しい時間を満喫した後、1泊2日のリトリートを終えた。後日、チャペルで「リトリートを振り返って」と題して7人の学生に話をしてもらったことも記しておこう。一人一人がこれから、自分のタラントンをを見つけ、愛と奉仕の精神を身につけてつつ、充実した大学生活を送って行けることを祈る。（宗教 伊勢田）



新ボランティアセンター始動！

ボランティアセンターでは、4月から場所が別館棟から新館4階に移り、職員も変わり新生ボランティアセンターがスタートしました。ボランティアセンター学生スタッフとしての学外の活動としてECOチームが主体となって5月17日（金）、『エコウォーク』を実施しました。



授業の空き時間を使って、東静岡駅から大学までの通学路を綺麗にしようと、昨年まで年1～2回行っていた清掃活動ですが今年は、2ヶ月に1回行えたらと思っています。それに先駆けて、今回は、昨年12月以来の清掃活動となりました。

参加者は、学生スタッフ9名・英和生3名・教職員4名の計16名の参加となり、東静岡駅から約3キロの道のりを3つのコースに3つのグループに分かれて清掃活動を行いました。

壊れた傘・ペットボトル・空き缶・タオル・ハンガー・タバコの吸い柄等々が落ち、マナーの悪さを感じた次第です。何よりもゴミの不法投棄によるマナーを学生は学んだのではないのでしょうか。この活動を通して、学生同士及び、普段授業で話す事が出来ない話を学生が教職員の方々と話す良きコミュニケーションの場となりつつ、かつ、地域貢献に役に立つと言う一石二鳥の場となったのではないかと思います。



今回、静岡新聞社から取材を受け、5月18日の朝刊に活動が掲載されました。

今後も地域の皆さんから愛されるような活動を行っていき、英和のボランティアを感じてもらえたら嬉しいです。（ボランティア 橋本）

人間社会学科News ～ASEAN留学生27名が訪問～

JENESYS2. OASEAN 経済共同体 (AEC) 2 階ユースネットワーク



さる5月30日、一般財団法人日本国際協力センター (JICE) 主催、JENESYS2.0プログラムで訪日中だったASEAN諸国の大学生27名が英和を訪問しました。

到着した学生たちの多くは、あいにくの雨のうっとうしさを吹き飛ばすような、華やかな民族衣装に身を包んでいて、拍手で歓迎した学生たち、教職員の目を奪っていました。

訪日団一行は日本に到着後、外務省でのセレモニーに出席し、浅草、原宿などを見学したあと来清。

「クール・ジャパン」について学んだ

め、いくつかの企業を見学した後の英和訪問でした。



一行はまず講堂に案内され、武藤学長からの英語によるスピーチで歓迎されました。続いて訪日団代表学生がお礼の挨拶をのべ、学長と代表学生は壇上でがっちりと握手。

新館一階ラウンジに移動した一行は、ここで人間社会学科学生約30名と合流し、人間社会学科永山教授による英語での講義「認知心理学で見るクール・ジャパン」を受講。講義終了後は九つのグループの別れて、英語で活発かつ和やかな議論を繰り広げました。



交流会をランチ・タイムも続けられ、最後は民族衣装のファッション・ショーでお開き。

訪日団と本学の学生たちはすっかり親しくなってメルアドの交換や互いの写真撮影を行って大いに盛り上がりました。

世界に開かれた英和学院大学の本領が発揮された一日となりました。(人社学科 鬼塚)

コミュニティ福祉学科News ～海外福祉現地研究～



2月10日(日)朝7時過ぎに静岡駅に集合した学生7名は引率教員とともに成田空港経由でストックホルムへ向かいました。

限られた日程の中でスウェーデンとデンマークの福祉の特徴を比較して理解しようと、子ども福祉と障がい者福祉の研修を重点にしました。

スウェーデンでは、北欧で一般的な野外保育をしっかりと行っている保育園(日本風に呼ぶと)で、冬の寒さの中でも子どもたちが屋外で半日遊ぶのがあたりまえという姿を目にしたり、デンマークの保育園では保育内容を保護者と話し合っ方針を決めていくという話しや動物をとおした生命の尊厳の体験学習などに驚いていました。



また、ストックホルムでは多くの地元の人々が普通に食事をする知的障がい者が働くレストランで昼食をとりました。特別に厨房を案内していただきましたが、指導者はいるものの基本的なサポートをするだけであとは手を出さず、あくまでも障がい者が前面に出て働くお店に、スウェーデンの福祉の姿を見た学生は、「スウェーデンの障がい者が働くレストランで案内してくれた女性の笑顔が今でも忘れられない。時折障がい者と関わることもあるが、あんなに嬉しそうに生き生きとした笑顔を見るのは初めてだった」との感想を述べています。



参加した学生は、一人ひとりを大切にする福祉のあり方を学んでくれたようです。(コ福祉科 見平)

キャリア支援課 ～就職の状況～

就職活動は日本経済や景気動向に大きな影響を受けやすい。2013年6月時点で株価は1万3000円を越え、為替は1ドル100円近くになっている。一年前と状況は大きく変化している。もちろん日本経済もグローバル経済と直結しているおり、今年の4月以降、個人消費は少しずつであるが上昇傾向にあり、企業の設備投資も増加しつつある。



さて、2013年5月1日現在の大学及び短期大学の各学科の主な就職先は、

○人間社会学科

富士信用金庫、島田信用金庫、掛川信用金庫、鈴与システムテクノロジー（株）、（株）メガネトップなど。

○地域福祉学科（コミュニティ福祉）

静岡市、富士宮市、（財）静岡県済生会、（福）聖隷福祉事業団、焼津豊田幼稚園など。

○現代コミュニケーション学科

中部電力（株）、（株）丸井グループ、イオンリテール（株）、リンナイテクニカ（株）、（株）サマンサタバサジャパンリミテッドなど。

○食物学科

エスエスケイフーズ（株）、シダックス（株）、日清医療食品（株）、（株）市川園、伊比水産（株）などである。

就職状況を日本人学生に限定すると各学科の2011、2012、2013年の就職率は、

○人間社会学科

69.8% ⇒ 72.7% ⇒ 76.4%

○地域福祉学科（コミュニティ福祉）

86.9% ⇒ 96.4% ⇒ 91.9%

○現代コミュニケーション学科

81.4% ⇒ 77.0% ⇒ 81.4%

○食物学科

93.5% ⇒ 87.8% ⇒ 89.9%

基礎演習では働くことに対する意義づけを学

ばせ、併せてインターンシップシステムの充実などのキャリア教育を積極的に進め、早い時期から学生に職業意識を持たせるための取り組みを実践している人間社会学科においては就職率を改善しつつある。

人間社会学科以外は、景気動向や業種の専門性から就職率が年によって変動があるが、これらの学科においてもキャリア教育に力を注いでいるため、そう遠くない時期に良い結果が出ると考えられる。



なお、全学生の就職率は大学では84.6%から78.7%へ5.9ポイント低下し、短期大学部では83.1%から86.1%へ3ポイント上昇した。詳細は下記表のとおりである。

区分	学 科	卒業生数	就職希望者	就職者数	就職率	昨年内定率
大学	人間社会	99(22)	85(13)	62(7)	72.9	75.3
	地域福祉	40(0)	37(0)	34(0)	91.9	96.6
	大学合計	139(22)	122(13)	96(7)	78.7	84.6
短大	現代コミュニケーション	88(10)	72(2)	59(2)	81.9	77.4
	食物	86(0)	79(0)	71(0)	89.9	87.8
	短大部合計	174(10)	151(2)	130(2)	86.1	83.1
合 計		313(32)	273(15)	226(9)	82.8	83.8

(キャリア支援課 小杉)



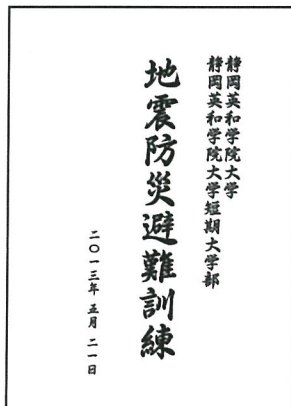
（支援風景）



学務課 ～5月21日地震防災避難訓練を実施～

前日までの雨が嘘のように晴れ、初夏を思わせる陽気の中、地震防災避難訓練が行われた。本学では毎年、春に地震防災避難訓練、秋に火災防災避難訓練を実施している。

今回は、4月から安否確認緊急連絡システムでの自動発信が震度6弱からに変更となったことを受け、震度6弱の地震発生を想定しての避難訓練となった。また近年は使用していなかった西館と新館の屋外非常階段を使用した。非常時以外では立ち入れない階段なので、避難した学生たちは興味津々な



様子だった。それ以外にも前回までの反省を踏まえ、いくつかの変更を行った。学科の在籍人数等に合わせ、学科別の避難場所の見直しを行った。さらに避難直後の避難者カードの記入は現実的ではないとの判断から、学科学年別の在籍者



名簿による避難者チェックに切り替えた。各学科の避難場所を離した結果、避難時に学生同士の交錯が減り、避難が比較的スムーズに行えた。学科によるばらつきはあったが、概ね10分以内で避難できた。避難行動は季節を先取りした蟬が鳴き始める中、すこしのどかな雰囲気もあった。もう少しきびきびと動けるとよかった。(学務課 山縣)

学務課 ～9月から公開講座が始まります～

今年度も9月から公開講座を開催します。今回のテーマは『夢』で、全6回を予定しています。

日本やヨーロッパの文学から見た「夢」や心理学から見た「夢」など、学内教員の様々な専門分野から「夢」について講義します。高校生からご年配



の方までどなたでも無料でご参加いただけます。大学生・社会人以上の方は教養を深め、生涯学習にお役立てください。高校生の方は是非この機会に本学の雰囲気を感じてください。

ご参加いただいた方には、本学と地域の障がい者支援施設協働で作っている「E i waクッキー」をご用意しています。また、全6回中4回以上参加いただいた方には修了証とちょっとしたプレゼントがあります。



日程・内容など詳細は本学ホームページなどでご確認ください。事前申し込みが必要ですのでご注意ください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。(学務課 小田)

留学生センター ～2013年度の活動がスタート～

2013年度、新館に移った留学生センターは新しい環境で新たなスタートを切りました。4月の留学生ガイダンスで留学生センターを紹介したことで、新入生からの各種の手続き、履修、住居、アルバイト、奨学金などについての多くの相談、問い合わせが寄せられました。漸く一段落し、留学生たちも少しずつ大学生生活に慣れてきたと思います。

新入生たちにできるだけ早く新しい環境に慣れていただくために、5月8日にチャペルでの留学生センタースタッフ募集説明会終了後、留学生センターで「新入生との交流会」を開催しました。書道部の杏名先生を招き、参加者に習字体験をしていただき、先輩留学生や日本人学生スタッフと交流を深めながら、それぞれ思い出になる作品ができました。

また、留学生の日本語能力を向上させるための日本語サポート事業も本格的にスタートしました。



今回のサポートはレクチャー形式で、日本語教育に経験豊富な阿知波先生を講師に招き、5月から7月の約3カ月間、学生のレベルに合わせて19回行う予定です。関連する日本の幅広い知識を学ぶこともできます。中国、ミャンマー、スリランカ、カンボジア、バングラデシュ等多国籍の留学生たちが参加して、意欲的に学習に取り組んでいます。

そして、留学生たちに日本の交通ルールをしっかりと理解していただき、安心、安全に学生生活を送ることを支援するため、6月3日（月）に静岡南警察署の方を講師に招き、留学生を対象とした交通安全教室を開催しました。講座では、事故事例からバイクや自転車の危険走行で悲惨な事故につながる可能性などについて理解を深め、交通ルールを守ることの大切さを再認識しました。

また、2013年度ふじのくに留学生親善大使に本学から4名の留学生が任命されました。任命された数はこれまでで最多となりました。今年も活発な国際交流ができることを期待しております。（留センター 鈴木）



テニスコートが多目的グラウンドに生まれ変わります！

学生が安心して快適に授業や活動をするために、老朽化が著しいテニスコートを、2013年6月より全面改修する工事がスタートしました。

これは、大学後援会のご協力により実現したものです。

整備後は、テニスコート（3面）、又はフットサル（2面）ができる多目的グラウンドとなります。

コートは全天候型砂入り人工芝です。（総務課 坂本）

工事概要

工事名：多目的運動場整備工事

工事場所：静岡英和学院大学 敷地内

工期：平成25年6月13日（木）

～平成25年9月下旬 予定



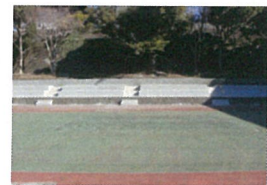
大学後援会 ～観覧席を新設しました～

現在進行中の多目的グラウンド（以下グラウンド）整備に先立ち、グラウンドに観覧席を整備する工事を行いました。

今までは観覧席がなかったため、観戦や応援等が出来ませんでした。今回コート外側の斜面を利用して観覧席を設けることで、グラウンドの面積を確保しながら気軽に観戦を楽しめるスペースをつくりました。

コンクリート製のシンプルなデザインで、約80名が座れるものです。

今回の観覧席新設によって、グラウンドで行われるスポーツ活動がさらに盛り上がっていくことを期待します。（総務課 高橋）



静岡英和学院大学
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY



静岡英和学院大学短期大学部
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE

〒422-8545

静岡市駿河区池田1769

TEL 054-261-9201

FAX 054-263-4763

<http://www.shizuoka-eiwa.ac.jp>

info@shizuoka-eiwa.ac.jp

企画・編集 学報委員会